田面木小

進んで伝え合い、主体的に学ぶ子の育成

（３年計画の１年次）

校長　高山　一雄

１　研究主題について

本校では、教育目標の「よく聞き考える子」及び、努力目標の「よく聞き、しっかり考えて課題に取り組む」を受け、相手の考えを聞き、自分の考えを深めることのできる児童の育成を目指している。

昨年度までは、主題を『自分の考えを進んで表現する子の育成』とし、全教科全領域で課題に意欲的に取り組ませるための授業づくりや、自分の考えやその根拠について表現する意欲を高めるための授業づくりを研究した。その結果、学習題材へ様々な「しかけ」を取り入れながら工夫して課題設定に取り組んだことで、児童の意欲を全体的に高めることができた。また、「書くこと」と「話すこと」を組み合わせながら、どちらかの形で全員が考えをもつための手立てを工夫したことにより、児童の表現する意欲や力を向上させることができた。一方で、自分の考えを表現するだけではなく、相手の考えを聞きながら、解決に向けて伝え合う力がまだ足りないという課題が挙げられた。

そこで、今年度はこれまで培ってきた表現する力を生かしながら、さらに自分の考えを積極的に伝え合うための授業づくりを、全教科全領域で研究することにした。また、学ぶことに興味や関心をもち、見通しをもって粘り強く取り組み、振り返って次につなげるという主体的な学びについても研究を進めていく。具体的には、学習課題を設定する場面では、引き続き「しかけづくり」を取り入れ、児童に揺さぶりをかけたり葛藤させたりしながら、意欲的に課題に取り組むことができるようにさせる。そして、児童が自分の考えと友だちの考えを比較しながら聞いたり話したりできるための場の設定や支援について研究する。

以上のような理由から、今年度は児童の伝え合う意欲を高め、全ての児童が主体的に学ぶことができるような授業づくりを目指していくことにした。

２　研究のねらい

課題に意欲的に取り組み、自分の考えを進んで伝え合いながら主体的に学ぶことができる児童を育てるための指導のあり方を明らかにする。

３　研究仮説

思考の対立や葛藤、疑問をもたせるための課題設定や発問を工夫し、自分の考えを表現し合うための場の設定や支援を工夫することによって、児童が意欲的に課題解決に向かい、進んで伝え合う力が高められると考える。

４　研究内容

(1) 児童に思考の対立や葛藤、疑問をもたせ、意欲的に解決しようとする学習課題を設定するための、学習材の「しかけ」や、発問の工夫はどうあればよいか、実践を通して明らかにする。

(2) 課題を解決するための話合いの場面や課題についてまとめる場面で、児童が自分の考えと友だちの考えを比べながら、話したり聞いたりすることができるための場の設定や支援はどうあればよいか、実践を通して明らかにする。

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究等

月	日	内　　容
５	２６	提案授業　　第６学年　社会科「縄文のむらから弥生のくにへ」 授業者　　教諭　　鎌田　裕子
６	２４	第１回授業研究　　第５学年　家庭科「整理・整とんで快適に」 授業者　　教諭　　山下　淳
１０	１９	第２回授業研究（要請訪問）第３学年　国語科「宿泊学習で持って行きたいもの」 授業者　　教諭　　清水　咲良 助言者　八戸市教育委員会教育指導課　　福田　秀貴　主任指導主事
１１	９	第３回授業研究（要請訪問）第１学年　道徳「はしのうえのおおかみ」 授業者　　教諭　　近藤　純子 助言者　八戸市教育委員会教育指導課　　大野　勉　主任指導主事
１２	７	第４回授業研究　あすなろ２組　自立活動「こんな時、なんていう？～困ったときのお願いの仕方～」 授業者　　講師　　野邊地　宏大
１１	２４	中学年ブロック参観授業　　第３学年　音楽科「まほうのチャチャチャ」 授業者　　教諭　　荒井　美佳
１１	３１	特別支援ブロック参観授業　あすなろ１組　自立活動「自分のことを知ろう」 授業者　　教諭　　田村　久美子
１２	１	低学年ブロック参観授業　　第２学年　算数科「三角形と四角形」 授業者　　教諭　　坂本　明希子
１２	１４	中学年ブロック参観授業　　第３学年　道徳「同じ意見じゃないと友達じゃないの？」 授業者　　教諭　　宮永　杏菜
１２	２１	特別支援ブロック参観授業　おおぞら学級　自立活動「こんな時、なんていう？～困ったときのお願いの仕方～」 授業者　　講師　　越後　順子

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要等
5	2	１人１台端末の使用方法について　　研修主任　　鎌田　裕子
6	8	人間関係づくり　　講師　青森県総合学校教育センター 教育相談課　　根城　亮輔　指導主事
8	２３	授業での１人１台端末の活用と演習　　研修主任　　鎌田　裕子
１１	３０	ＳＯＳの出し方教育　　講師　青森県総合学校教育センター 教育相談課　　佐藤　幸広　指導主事

６　研究の成果

(1) 学習課題設定のための「しかけ」では、様々な方法を駆使して児童の思考を促したり揺さぶりをかけたりすることができた。それによって、児童が積極的に課題に取り組むことはもちろん、自ら課題を考えたり自力で解決したいという思いをもったりすることができるようになった。

(2) 考えを伝え合う場の設定と支援では、事前に自分の考えを書くことやペアで確認すること、少人数で検討することが有効であった。意見を共有することで児童に安心感が生まれ、発表の回数が増え自信をもって発言できるようになるなどの成果が見られた。また、児童から出された意見を視覚化することで、より活発な話合いにつなげることもできた。

７　研究の課題

児童の学習意欲を高めるために、学習課題の設定場面では「しかけ」から「課題設定」までの流れについて、児童の思考に寄り添いながら発問を吟味することについてさらに研究を深めていくことが必要だと思われる。また、自分の考えと相手の考えを比べながら聞く態度を身に付けさせるためにも、伝え合った内容や自分の意見の変容などを振り返る場の設定や工夫をすることについても今後の課題として取り上げていきたい。　　（記入者　鎌田　裕子）